

刊日九十月九



定額一圓五角... 發行所 常盤 每日新聞社

各宗の本尊觀

眞 繼 雲 山

佛敎とは、佛様を拜むの敎へであるが、宗派々々によつて、その目標は聊か異なる。

眞言宗は即身成佛を宗義とし大日如来を禮拜して一切は大日如来の顯現である

淨土門の思想は彌陀におます佛國土とは萬物の終歸である

阿彌陀佛の慈悲を本筋として説いたものが淨土三部經であつて、その内の觀經は、釋尊が靈山會上に法華經を説いてゐられる時の王舎城中の所説であるから、たゞその對機を異にするのみで、一代佛敎としては法華經も三部經も最重要の位置を占むること言ふまでもない。

淨土門の思想は彌陀におます佛國土とは萬物の終歸である

阿彌陀佛の慈悲を本筋として説いたものが淨土三部經であつて、その内の觀經は、釋尊が靈山會上に法華經を説いてゐられる時の王舎城中の所説であるから、たゞその對機を異にするのみで、一代佛敎としては法華經も三部經も最重要の位置を占むること言ふまでもない。

淨土門の思想は彌陀におます佛國土とは萬物の終歸である

阿彌陀佛の慈悲を本筋として説いたものが淨土三部經であつて、その内の觀經は、釋尊が靈山會上に法華經を説いてゐられる時の王舎城中の所説であるから、たゞその對機を異にするのみで、一代佛敎としては法華經も三部經も最重要の位置を占むること言ふまでもない。

歸命せんといふにある。

日蓮宗も亦た釋尊を神拜するのであるも、禪宗とその趣きを異にし、釋尊を本佛として信仰するのであり

久遠劫來の御本尊と仰ぐのであるが、しかもその御本尊は西方十萬億土にのみならず、生きてありとし法華經の色讀すなはち法華經の體験を以て、即身成佛とする別に法華經を正依とするものに天臺宗がある。

臺家にありては、法華經所説の妙旨によりて即身即證して速かに佛位に登らんとするものであり、この條日蓮宗に比してその觀点を異にする。

淨土門の思想は彌陀におます佛國土とは萬物の終歸である

阿彌陀佛の慈悲を本筋として説いたものが淨土三部經であつて、その内の觀經は、釋尊が靈山會上に法華經を説いてゐられる時の王舎城中の所説であるから、たゞその對機を異にするのみで、一代佛敎としては法華經も三部經も最重要の位置を占むること言ふまでもない。

淨土門の思想は彌陀におます佛國土とは萬物の終歸である

阿彌陀佛の慈悲を本筋として説いたものが淨土三部經であつて、その内の觀經は、釋尊が靈山會上に法華經を説いてゐられる時の王舎城中の所説であるから、たゞその對機を異にするのみで、一代佛敎としては法華經も三部經も最重要の位置を占むること言ふまでもない。

淨土門の思想は彌陀におます佛國土とは萬物の終歸である

阿彌陀佛の慈悲を本筋として説いたものが淨土三部經であつて、その内の觀經は、釋尊が靈山會上に法華經を説いてゐられる時の王舎城中の所説であるから、たゞその對機を異にするのみで、一代佛敎としては法華經も三部經も最重要の位置を占むること言ふまでもない。



(4)

雨より 悪るい

三津木貞夫

二千五百年前の王舎城中にも、千年以前の王朝佛敎にもその思想は嚴存してゐた左れば天臺智者大師、傳敎大師も、その御致終には南無阿彌陀佛を念誦せられたりといふこと固より尤もあらべきだ。唯だその阿彌陀佛とは即身速證の上に生れた己心の彌陀、唯身の淨土であつて、聖者觀照の佛國土であつたと思ふ。

重吉は、事情を説明して監督に懇へた。 「駄目だ、駄目だ。規則が規則だ」と、宮田重吉をさへぎつて喚めさせた。 「だけと旦那、——。」 重吉は叩頭した。 「やかましい、鹿馬野郎 駄目だつて一度言つたら、駄目だ。手前等のやうなやぐざものこと、一、一、可哀いそなたと思つて事情さいたりなんかして居た日には伊達も限りもあるもんか。第一手前は今日休んだ。それだの子供、朝飯ないし辨當もない、だから學校を休ませた、俺らも朝飯喰はないで来たんだから、使つてくれろだ、ちつた物も考へてからにしがれ。飯が食はんないつちゆは、なにも手前ばつかりぢやないんだ。手前ばつかりなんだかんだつて言つたつて使つてやる譯には行かない。あとの奴等のしめしがつかない。五日過ぎたら來う。その時は働らかまいつて言つたつて、こつちでは働らかしてやるあ。」 「でも、旦那、一つどうかそこが規則だつべけんぞお慈悲といふもんで、へい旦那。」 神様を拜むやうに彼は熱心に監督を拜んだ。 「チエツ。判んない奴だ。」 そして、監督は、イキナリ重吉を 「どきやがれ、忙しいんだ」と、つきのけた。 重吉はどつき尻餅をついた。 それでも、彼は尻の痛さを堪えて、必死に監督にすがりつくやうに言つた。 「昨日、雨さへ降んないつか良かったんだが。」 「雨のことでも怨みやがれ。」 「旦那。」 と、重吉は立ち上つて哀願した。 「うるさい。」 また、監督はつきのけたこんどは、重吉は空腹にはづみを喰つて、したゝか

倒れた。すると、側に居た菜つ葉が 「おい、旦那、一つ如何うだい？ 今日使つてやつては、聞けば可哀いそなたも貧乏して居つけんぞ、またこの人よりか程度は上だ。今日、この人こと俺の代りに使つてやつてくんちやい。今日は俺、歸へつか」と、言つた。 「ウム」 監督は喰つた。 「な、使つてやつてくんちやい。俺の代りに。」 そして、彼は重吉に強く 「おい、働らかさい。なに遠慮すつことはない。勞働者はお互さ。しかし、雨がなにも悪るんぢやない。雨より悪るい奴が居るんだ。俺達失業者を喰ふ奴だ。失業救済と立派なことを言つて、七十錢の辭令をくれて五十錢しかくれない奴だ」と、言つた。 「一九三三・九・一〇」

御料 鹽 豚 屋三二三町田 番三二三話電

新製品 コーヒー通の待望せる 挽立コーヒーの快味 四半卦罐入 〇、三五 半卦 〇、六五 コーヒー發賣 大勝園コーヒー部 電話三九六番

高久病院 院長 醫學士 高久忠 副院長 新瀉醫學士 赤羽清 藥局長 藥劑師 佐竹菊雄 内科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科 平町田町 電話五一三番

月曜言論

食へぬ正體

『豊原瑞穂國に生れ來て、米が喰へぬとはうそのよな話』

とは會つて米價奔騰の好況時代、安成二郎氏がサラリマンの歎きをものした歌であるが、それが此の頃では當のお米を作る農民のOSとなつたのだから全く『ウソのよな話』ではある。

が——爲政者の是れが對策に徒らに一時的の彌縫糊塗的にして、各方面の所謂同情者達の聲はあまりにも感傷的に過ぎては居はしないか？

人事を盡して天命を待つ——是正に千古の至言、飢饉地に就ては云はず、他の一般農民諸君は果して然るか？

報知新聞の本縣特派員は伊達郡茂庭村を語つて曰く『郡農會の技師が山葵栽培や栗の加工奨励等を行つても、勤勞の習慣は傳統的に失はれて居て更に乘氣にならない。』云々と

畏くも皇太后陛下の御感を辱なうした、千葉縣の精農繪垣仲次郎翁は麥の多收獲に於て反當り十二石といふ最高レコードの保持者、さればこそ無一物の小作人から五町歩の地主となつたのである。

先日も小田部平署長を訪れた際の話しであるが同署長の郷里では、毎朝丹念に拾ひ集めた馬糞や塵埃を素

に自製した一文もかゝらぬ堆肥を使つて農業を営み相當な収益を擧げ、此處のみは疲弊の聲を聞かぬと若し夫れ、是等のせめて

何分の一の努力、精進を心がけたとせんか現下の窮狀より脱する易たるのみ！奮と努力なくば百の救済千の助力を受くるもその効なしと云ふべきであらう。

けふ晴れの水道祝に

折好く福島號が飛來

天空に煙火轟く

平町上水道竣工祝賀式は本日午後一時より八幡小路水道配水池傍らに於いて赤木本縣知事一行の縣高官を初め各官衛學校長其他來賓四百餘名出席のもとに舉行先づ水神社並びに工事竣功祭儀厳肅に執行されて伏見町長の式辭、山下水道課長の工事報告あり工事功勞者と

上白米一キロ十六錢五厘
中白米 〃 十六錢
並白米 〃 十五錢五厘

田糶白 〃 二十一錢
陸糶白 〃 二十錢

平ツ兒の意氣を見よやと

朗らかな秋を若人は躍る

榮冠を目指して

朗らかなスポーツの秋、跳躍の秋、みゆる秋、澄んだ空に飛ぶ球の張り切つた音をどる玉砂、砂をあげて高鳴るスパイクの力強い響、

一萬米 八百リレー 砲丸投 走高跳 走巾跳 三段跳 柔道 剣道 相撲 弓術 外に新種目を加へて

軟式野球戦と町民体育大會にあり、また体育大會の前回は陸上競技が南町分團武道が六、七丁目分團であり本年は此の獲得戦に華々しい 場面を數多く繰り廣げる事であらうと多くの期待を持たれて居る

米穀値上

平町にて

平米穀商組合では昨十八日協議の結果市内の米穀の小賣値を左の如く各五厘宛値上する事になつた

百米 四百米 千五百米

グラウンド

に於て第二回分團對抗軟式野球大會を催し更に十月下旬頃町民体育大會を開いて

内郷の新設道路

来る廿一日より着工

石城郡内郷村字新町地内鐵道線路に添ふて同村御臺境に通ずる長さ百六十間餘の新設道路は過般水戸保線區内に於いて入札せる結果平町搔籠小路前澤文太郎氏が三千四百三十圓を以て落札し来る廿一日より工事開始し十一月十九日迄に竣功する豫定であると

ドツチボール

久之濱が優勝

昨日平第一校で競技

既報濱三郡各小學校對抗ドツチボール大會は昨日午前九時より平第一小學校グラウンドに於て會長會我直治氏の開會の辭に次ぎ審判長新家芳美氏の競技注意あり大和田佳都氏外十五名審判の許に三組にわかれ開始されたが戦績は左の如く榮ある優勝旗は尋常科高等科共に久之濱校が獲得する處となつた

平職業紹介所報告

回求人部の 採炭夫 三十五迄 尋卒 給料面談(赤井福島炭礦) ミシン見習 十七才 仕 着小使(東京市某) 雑役 二十五以下 尋卒 給料面談(四倉町某) 自動車修繕工 二十五迄

お断り 本日記事輻輳に付 匪賊薄伐夜話休載 尋卒 日五六十錢(平町某)

回求職の部 ヲック 二十六才 高卒 給料面談(相馬郡某) 大工職 三十七才 尋四 修 給料面談(新潟縣某) 女中 十七才 尋卒 給料面談(平町某) 給仕 十九才 高卒 給料面談(磐崎村某)

蘭市況 (18日) 四倉市場 (白蘭)三百二十六貫(最高) 四十一圓八十錢(最低)三十四圓五十錢(馴)三十八圓七十錢

出場選手の 磐城高 壯行會開く 等女學校にては来る二十一日午後一時より生徒等が主催となり縣体育大會出場選手の壯行會を開くと

豊間養蠶總會 石城郡豊間村養蠶實行組合では廿三日午前九時より同村小學校に於て臨時總會を開き

コレラ病の騒ぎで 兵士が不参加

明日の市街演習 遂に中止と決す

既報平在郷軍人分會主催の平市街演習は明朝を期して行はれる筈の處本朝突然若松廿九聯隊より藤田分會長宛大野村のコレラ騒ぎを理由として兵士の参加を中止する旨の通牒があつたので

コレラの迷惑 各方面に及ぶ

地元では梨の取引なく四倉濱は魚が賣れない

既報石城郡大野村のコレラ騒ぎに就いては其後死亡者佐藤久治の血液其他を十數回に亘り平細菌検査所で検査の結果眞性の疑ひが晴れ昨十八日午後六時半コレラに非らずと發表されさ

微罪で追放した 男が留置場破り

各署に手配して
目下行衛を探查

去る十五日平検事局に於て市川検事係りの下に四倉町字新町門馬キン方に忍び入て窃盗を働いた住所不定無職杉山統一(三)を取調べの結果微罪の爲め不起訴と爲し茨城縣關本驛迄の切符を與へて出發せしめたが其後

同分會長は驚いて種々交渉したが既に平市街戦參加の豫定兵士は他に向けて出發せしめて仕舞つたとの事に施す術なく遂に明日の市街戦は中止するに至つた

に至り去る一日宮城縣吉岡刑務所に窃盜の被疑者として留置中留置場を破つて逃走した玉井彌助(三)であつた事が判明各署に手配をなし嚴戒中である

高田監督 けふ講演

既報オリンピック大會女子選手監督高田通氏は本日午前八時三分着にて來平磐城中等學校及び磐城高等女學校に於て講演をなし平發午後四時三分にて歸京した

模型機は亂れ飛ぶ 昨日郡下競技大會の壯觀

既報平驛前いづみや玩具店主主催本社後援の第三回郡下模型飛行機競技大會は昨日午前十時より平第三小學校グラウンドに於て早朝來此の妙技を見んものと押掛けた多數の觀衆の拍手裡に開催されたが参加機はA組(トランクター)B組(ライトプレーン)合せて八十機にて

一等は一分七秒耐空

氣遣れた天候も漸時回復し絶好の競技日和となりコンディション頗る良く盛況を呈したが當日の入賞者は左の如くである

▲A組の部
(一等)一分七秒 綴 佐藤忠一(二等)木戸 矢内忠夫(三等)平 多田清(四等)平 木村久彌(五等)

▲B組の部
平 平館重雄(六等)平 高野幸一(七等)平 志賀一美(八等)平 菊地交見(九等)平 高田五郎(十等)平 志賀幸雄(十一等)宮加藤一太(十二等)平 野木勝義(十三等)綴 佐藤万七(十四等)平 大平泰一(十五等)高坂 國分鐵次

明日のラジオ

二十日

今晩も明日も北東の風曇り小雨 模様一時晴

今晩の部

後五、三五 趣味講座「文士生活樂屋」話武野藤介
後六、〇〇 子供の時間
お話「燈臺」局工作課長森田富士助
後八、〇〇 浪花節「相撲物語」阿武之松 縁之松

後八、三〇 小唄 吉村青壽三味線 吉村ゆづり
後八、五〇 連続講談「天保六花仙の内くらやみの丑松」第一席 神田伯龍
後九、三〇 時報 全國ニュース 氣象通報 番組預告

享主の不在中 女房が勝手に轉居

石城郡湯本町字臺山一八居住相馬郡松原村字新沼生れ漁夫廣川貞治(三)は去る十七日の夜宮城縣方面の出漁場から肩書地に歸宅して見ると空屋となつて居るので不審に思ひ附近の者に聞くに妻ハツエ(三)は同人に無断で同町三國二二八番地に移轉したと判り激昂した結果同夜十時頃移轉先に駆付け七首を振つて妻に斬り付けたが妻は早くも悲鳴を擧げて避難した爲め同人は直に駐在所に自首したので目下平署で取調中

明日の部

前六、三〇 佛敎講座「原人論」(一)梅檀中學々長櫻井肇山
前七、〇〇 彼岸會法要 第一日 淨土宗總本山知恩院門跡執事長正僧正加藤鏡心外
前九、一〇 料理献立「トマト入のオムレツ」中村光三
後〇、〇〇 掛合嘶「百圓の油揚」豊年齊梅坊主外
後二、〇〇 家庭大學講座

四家病訓導の 一家に死の手

先頃の火傷が因で今朝道子さん逝く

薄命の元訓導四家安男氏一家には世の同情翕然と集り同情金等相次ぎ病床中の四家訓導も世間の温き情けに愁眉を開いて感激しつつある折柄今朝四時頃二女道子(三)が先頃の火傷が因で死亡し重ね々々の不幸に一家は暗澹たるものがある

梨泥鮮人 平署に捕る

石城郡赤井村字定田居住日雇業福田仙太郎事朝鮮人朴成植(三)は去る十三日同村竹の花矢吹金吾方梨畑より梨五貫餘を窃取同字雜貨商信夫マナ方に賣却した事發覺し昨日平署に押送され目下除罪取調中

川前産業組合 既報

石城郡川前村では明廿日午前十時より村役場に於て産業組合の設立發起人會開く

雑魚狩りの 吟道で變死

平町字御倉地内磐城片倉製糸工場裏吟道にて昨十八日午後二時頃一名の農夫が田に轉げ落ちて死んで居るのを模型飛行大會より歸途の者が發見直に平署に届出たので圓通部長及び藤沼醫師が出張検視の結果同人は正月町十二茂木清吉(三)で同地内で雑魚取り中心臓麻痺を起し絶命したものである

幕末剣士

【禁載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第一百五十五席

女流劍客里見靜枝

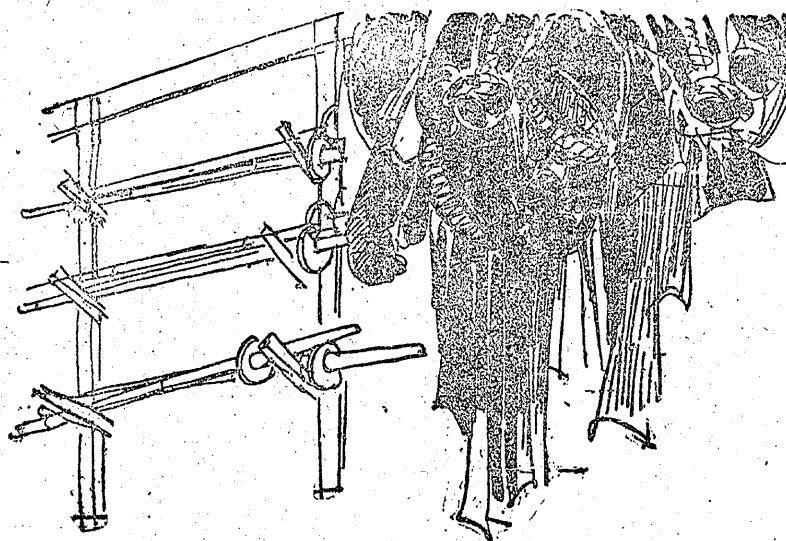
傳藏虎五郎に會ふ

虎五郎は手紙を見るとそれは秋山要介よりの書状、但し門人の杉山五郎兵衛の代筆

虎「先生は病氣だから筆を執ることはなまぬまい、エ、何だと、この長谷部傳藏と申す者曲者にて御座候へ共其地に差送り候間暫くお手許にお差置き下されたく此者には里見靜枝と申す敵も御座候、最も靜枝は女子にて殊に孝行者に候、長谷部の爲に實父里見主計横死いたし候、靜枝の劍道上達いたすまで傳藏をお預り下され度く願ひ上げ候、猶取逃がさぬ様御用心を被り下され度先づは御頼み状迄早々不、秋山要介、寄居虎五郎どの、大變な奴が来たな此方へ上げろ、どんな人間だか見てやらう」

子分は引返す、間も無くそれへ入つて来た傳藏
傳「親分にごさいますか初めてお目にかゝります、手前は上杉浪人……」
虎「イヤお名前は秋山先生よりの手紙にも書いてございます、又この手紙によるとお前さんは人を斬つて江戸を立退くことになつ

その瑾物の世話をするはわたくし共の渡世柄とて是も當然、まあ、ゆつくり遊んでおいでなさい、暇な時に若い者に劍術でも教へて下さればそれでよい、又賭場にわたくしが出張する時



の事、お侍が決闘をして相手を斬るは、わたくし共が綱張の争ひから人を殺すも同じこと、別に差かしいことではない、どうせわたくし共へ来る者に満足な人間はございませぬ、せん、シテ見れば

はお前さんも一緒に行き無法な奴が来たならばそれを懲しておくんないさ
傳「承知いたしました、秋山先生の申されるには當分寄居の親分の許へ參つて用心棒になれとの事、それを出ましてございます」
虎「さうですか、お前さんが用心棒になつて下されば誠に心強い、コレよ一口先生に差上げな、貰つた魚を洗肉にでもして出せ、暑い時分には煙の出るものは叶いぬえ」
其他荒川で捕れた名物の鮎傳藏は酒の馳走になり食事

をして子分の案内で別間下つて休息する
子分「先生は江戸からお出になりましたか」
傳「左様、秋山先生より手紙を頂いて親分の許へ參り御厄介になつたす」

子分「此處は狭い土地でござんすが熊谷に近い處で少なさな江戸でござんす」
傳「左様かな、就てはお尋ね申すが大分子分衆もあるやうに思はれるが」
子分「百人ばかりもござんせう、此處で冷飯を食つて居る者は十人ばかり」
傳「ウンさうか」
子分「親分は三年先に姐さんに別れて以來獨身でござんす、さういふわけで此處には女といふのは三毛猫ばかりあとは野郎でござんす」

子分「地震などがあつたつてつよみぢやア無え」
傳「アハ……じしんと申しても地の動くわけでは無い俺は強いといふ事を信じ居れば貴公の申しした通り相手の棧先を制して勝利を得るところで何人に就て劍道を學ばれたか」
子分「それはなんでござんす、越後高田の浪人で櫻井先生に就て修行しましたよ」
これを聞くと傳藏の顔色が變りました。

外花柳科専門
木村外科醫院

平町五丁目橋目
電話三〇九番

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
込次第規則書進呈

貸切の御用命は！

獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ……(マツサキ)
三九ニタクシーへ!!!

玉屋洋品店

平町四丁目電話五〇六番

中村齒科醫院

平町鍛冶町七

電話新設
二九八番

右新設致しましたから御利用願上ます
有隣生命保險平代理店
東洋白土會社常務販賣部
佐々木龍若
平町四軒町一八